

いのちと健康を守る活動

—CMIP ジョジョのクリニックから—
 <医療定期支援、2014年1月—3月の報告より>

巡回診療	1/11 (ナブル村) 歯科 44名(鎮痛剤処方) 一般診療 232名(内 117名 風邪) 2/21 (アトロック村) 歯科 33名(抜歯 85本) 一般診療 224名(内 165名 風邪) 3/6 (ラムブツ村) 歯科 25名(抜歯 35本) 困難な山道で歯科医師夫妻に感謝。
特別支援	1/20 ナブル小 4年(17歳) 包茎手術で、 G.サトス公立病院 1週間入院・薬支援 1/21 水疱瘡のナムングの幼児 5名・薬支援 1/22 病院で肺炎と診断の男児 (3歳) に 薬支援 (ビヤ人・町の最貧層住民) 2/14 バイクごと川に落ちた CMIP 運転手 病院で 縫合治療の後、薬代支援 3/10 眩暈がひどい高血圧患者 (ビヤ人・町 の最貧層) に薬支援。薬草も勧めた。
教師による 住民健康指導	アトロック等 3校の教師から、家庭訪問を含む 児童と住民の健康指導、月例報告を受けた

<奨学金事業で次世代の地域医療担い手育成>

PIHS と実施してきたヘルス活動自主財源創出事業(WE21 ジャパンみどり助成)は、地域事情に合わせた耕運機貸出、バニグ編み等による成果をご報告してきましたが、今回は奨学金事業の活用、成果についてお伝えします。

奨学金支援は、育成した保健ボランティアが教育費を稼ぐため村を離れる事例が増えて、自主財源創出事業に含めて、4年前から開始しました。始業時の文具一式やPTA会費などの校納金他(昨年度は20名、各 2,500円)の支援でも十分家計の助けになるようで、ボランティアの定着率が高まりました。



事業で支援の奨学生のうち、5名がこの3月、卒業の日を迎えました。式服等の卒業諸経費も支援しました。(PIHS スタッフ・ファティマと)

奨学生はリーダーシップ研修はもちろん、各種研修に保健ボランティアと一緒に参加するよう勧められ、栄養改善活動では、調理や幼児の体重測定を手伝い、薬草畑の手入れ等、学業の傍ら、将来の地域医療の担い手としての知識や技術習得に励んでいます。P1でも触れた医療自立を見据えた活動と評価し、今年も自己資金で継続支援を決めました。

<山の泉が村人の命を守り、苗木の成長も保証>

すでにご報告のように、長年、大人も含めて不衛生な水に起因する下痢や皮膚疾患に悩まされていたラワンに山の湧水が届きました。州立病院の医師のもと実施された水質検査で、大腸菌は基準以下と確認され、今後とも安心して飲料に使えます。ヘルサーカーによる聞き取り調査の結果、この半年で胃腸患者が8割減少したという嬉しい報告も届きました。

健康問題の解決で、住民は水道管理だけでなく、水源を守る涵養林と4年後の収穫が期待できるゴム苗木手入れにも協力して取り組むことと思います。また訪ねたいラワンです。(今井記念海外協力基金助成)

ナセル君に会いました

ブラコン村で4月8、9日 PIHS の責任者ナプサさんのドイツ人の友人の個人支援金で応急手当の講習が行われ、初日の午後連れて行ってもらいました。

集会所で3人の保健ボランティアが30名ほどの村民に説明していました。外では、子ども達を集めて遊んでいるスタッフもいます。私は、折り紙の風船で子ども達と遊びました。自分の手元に風船が来ても手を出さない子もいるなか、小さいけれど、受け取るのも投げるのも上手で積極的な男の子がいました。後でナプサさんにナセル君だと紹介され、驚きました。手術は大成功です!

しかし、家庭的には問題があります。父親は村を離れ、育児放棄。14歳の姉がナセル君を含め、弟たちの面倒を見ていますが、子どもだけで満足に食料を得られる訳もなく、他家を渡り歩いて食べさせてもらっているそうです。姉は本来なら中学2年生ですが、小学校を卒業しておらず、夏期講習を受ければ小学校卒業認定がもらえるので、ナプサさんは、ナセル君の術後健診もあり、子ども達を PIHS でひきとりたいと申し出ました。村長も賛成したものの、祖母の「父親の許可を得てからにして」との一言で連れてくることはできませんでした。その後どうなったのでしょうか。

スタッフ養成が進み、医療面だけでなく、社会福祉へと手を伸ばせるようになった PIHS。ナプサさんの地道な努力に頭がさがります。(相田)



自分から進んで T シャツをめくって、手術跡を見せてくれたナセル君と